

防犯カメラのROI徹底解説

コスト以上の価値を生む投資とは



防犯カメラの「投資対象」としての可能性

近年、企業や施設における防犯意識の高まりとともに、防犯カメラの導入が急速に進んでいます。しかし、「とりあえず設置しておこう」という感覚で終わってしまっているケースも少なくありません。

多くの企業が防犯カメラを「コスト」として捉えています。

導入には初期費用、設置工事、メンテナンス費用がかかるため、支出項目に分類されがちです。

しかし、防犯カメラは単なるセキュリティツールにとどまりません。

正しく設置・活用すれば、経済的リターンを生み出す“投資対象”としての性質を持っています。

たとえば、小売店においては万引き被害の抑止、製造業では作業ラインの監視による業務改善、オフィスでは従業員の勤務実態の把握、そしてあらゆる業態で起こりうるトラブルの「証拠記録」による紛争防止と対応コストの削減。

これらは、**導入費用を上回るリターン(=ROI：投資対効果)を企業にもたらす可能性**を秘めています。

このホワイトペーパーでは、防犯カメラ導入によって期待されるROIを定量・定性的な側面から分析します。

また、実際の導入事例を通じて「費用以上の価値をどう引き出すか」に迫り、

防犯カメラを単なる“支出”ではなく、戦略的な“経営投資”として位置づける視点を提供します。

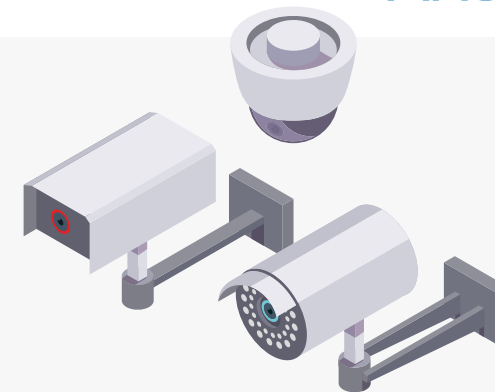
本ホワイトペーパーの目的

- 防犯カメラのROI（投資対効果）とは何か？
- コスト以上の効果を生む主要な導入目的と活用方法
- 成功事例から学ぶ「見えない価値」の可視化
- 導入前に押さえるべきポイントと意思決定フレーム





防犯カメラの 基本的な役割と導入目的



防犯カメラ導入の代表的な目的

犯罪抑止効果

設置そのものが「見られている」という
心理的圧力となり、万引きや侵入の抑止につながる。

安全対策の強化

危険エリアや機械周辺の監視により、事故発生リスク
の早期発見が可能。

証拠の記録

事件・事故・クレーム発生時の記録映像が、原因究明
・再発防止・法的対処の根拠として活用される。

従業員の行動管理

勤務状況の可視化、業務の効率性・公正性の確保に
寄与。

顧客満足の向上

待機時間の分析や混雑状況の把握を通じてサービス
改善に活用可能。

導入目的は業種・業態によって異なる

業種	主な導入目的
小売店	万引き対策、レジ不正の監視
製造業	作業工程の確認、労災防止
オフィス	勤務実態の把握、情報漏洩対策
医療・福祉	入退室管理、トラブル対応
教育機関	校内安全の確保、保護者対応



ROI の観点で見る防犯カメラの価値

ROI とは？

ROI (Return on Investment) = (投資によって得られた利益) ÷ (投資コスト)

→ 防犯カメラの場合、「利益」は損失の削減や業務効率化によるコスト減などで定義可能。

見落とされがちな ROI の構成要素



損失回避効果
(例：万引き・不正の防止)



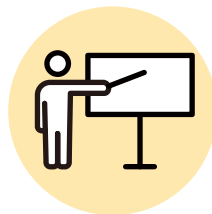
業務効率化による
工数削減



訴訟・紛争対応の
リスク低減



トラブル対応コストの
削減



社員教育の
補助ツールとしての効果

可視化されにくい重要な「間接的効果」



顧客や従業員の
安心感向上



労働環境改善による
定着率の向上



ブランドイメージや
企業信頼性の強化

ROI を定量的に捉える方法（防犯向け ROI の簡易試算式）

$$\text{ROI} = \frac{\text{年間の損失削減額} + \text{業務効率による節約額} - \text{年間運用コスト}}{\text{初期導入コスト}}$$

例

万引きによる年間被害額：80万円 → 導入後30%減少 → 24万円の利益

クレーム対応コスト：50万円 → 映像確認で早期解決し、20万円圧縮

導入コスト：80万円、年間運用費10万円 → 初年度ROI = (44万円) ÷ 80万円 = 55%

活用ポイント ▶ 事前に「どの損失を、どれくらい減らせるか」を仮設定する。導入後も定期的にROIを評価し、改善に活かす。

業種別導入事例と効果の可視化



事例 1 小売業(衣料品店)

導入目的 万引き対策、スタッフの対応改善

導入前 年間万引き損失 約120万円

導入後 50%減(60万円の損失回避)、スタッフ対応の質も向上



事例 2 工場(製造業)

導入目的 安全管理、作業効率の確認

導入後 作業事故が40%減、ライン遅延の原因を特定して改善



事例 3 オフィス(IT企業)

導入目的 機密エリアの入退室管理、トラブル対処

導入後 社内トラブルの早期解決、退職後の訴訟リスク回避につながる

ROI を最大化する導入戦略



1

設置目的の明確化

「何のために導入するのか」を言語化することで、効果測定が可能になる

2

ROI視点でカメラを選ぶ

単なる「価格」ではなく「解像度」「録画期間」「AI解析機能」などをROIと照らして評価

3

運用設計と社内ルールの整備

映像の閲覧権限、保存ポリシー、通知フローなどを整備することでトラブルや誤用を防止

4

定期的な見直しと効果検証

月次・四半期ごとにKPIや損失抑止効果を確認し、改善につなげる体制を整える

まとめ 防犯カメラは「費用」ではなく「価値を生む投資」

ROIという視点を持つことで、導入の意義が明確になる

「安心感」「効率化」「リスク削減」など、目に見えにくい価値も積極的に評価すべき

導入前に考えるべき問い

- ✓ 現在の損失額・課題を具体的に把握しているか？
- ✓ このカメラは、どのリスクを減らすのか？
- ✓ 導入によってどの業務プロセスに影響するかどんな業務が改善されるか？
- ✓ その成果をどう測定・報告するか？計測可能なKPIを設定しているか？
- ✓ 映像の運用ルールが社内に整備されているか？



最後に

防犯カメラは、適切に設計・活用されれば「単なる監視ツール」から「経営資源」へと変わります。

ROIという視点を持つことで、費用以上の価値を最大限引き出すセキュリティ戦略を、ぜひ実現してください。



防犯カメラの導入でお悩みの場合、
機器選定・現地調査～施工・購入後のサポートまで
アルコムが一貫して対応致します。
まずはご相談ください。

防犯カメラ・
監視カメラ専門店

株式会社アルコム

ARUCOM

製品・サービスに関する
お問い合わせはこちら



0120-7970-83

受付時間ー平日 9:15～17:00

防犯カメラ アルコム

